

草創期の青藍幼稚園

—経営及び地域社会との関わり—

安 富 利 光

The History of the Care and Education of Young Children in Yamanashi ; Notes (7)

The Beginnings of the SEIRAN Kindergarten

—The economical and psychological support by the local society—

Toshimitsu YASUTOMI

青藍幼稚園は、山梨県で甲府市の進徳幼稚園に次いで、二番目に郡内地方の谷村に明治39年に設立された幼稚園である。

本稿では、青藍幼稚園の草創期における経済的運営の状況と園児の地域社会の人々との交流の姿を、当園所蔵の諸資料に基づいて整理したものである。

1. 幼稚園の経営

青藍幼稚園創立当初の経営は必ずしも容易ではなかったように見受けられる。創立時6年間の経費の状況は、記録によれば表1に示したようである。

表1 創立時の経費

年 度	収 入		経費（円）
	保育料	補助金	
明治39年度	261	—	278
明治40年度	257	—	230
明治41年度	354	—	359
明治42年度	299	—	355
明治43年度	292.50	100	398.45
明治44年度	398.87	100	520.80

これによると、収入が経費を上回ったのは明治40年度のみであって、他の年度は悉く赤字経営と

なっており、6年間の累積赤字は78円88銭となっているのである。これに対して明治43年度以降、谷村町役場から毎年100円の補助金が送られるようになった。

それでも明治43、44年度の状況をみると健全な経営とはいえず、自ずから民間からの経済的援助の必要性が見受けられる。

そこで、青藍幼稚園維持金並びに物品寄贈録(明治39年～大正15年)によると、浄土宗関係機関をはじめ、地域の有力者、卒園児の保護者および壇家の人々から少なからず金品の寄贈がみられるのである。

明治45年には、維持費として浄土宗管長より五拾円也の寄付をはじめとして、地域の有力者と思われる人々から、10円、20円の寄付があり、また壇家の法要記念として100円の寄付金もみられる。

大正8年頃からは毎年卒園児の父母等から、100円を超える寄付がなされている。

これらの金銭とは別に、創立当初の建築費補助金として浄土宗務所から100円がおくられ、また大正14年の増築時にも、谷村町役場（950円）、浄土宗務所（70円）、その他民間人数名から合わせて170円の寄付がなされている。

また物品の寄贈もみられ、創立当初には、置暖炉、玩具20個、菓樹檜等30本、躑躅苗300本、修身例話辞典などが贈られており、大正期に入っか

らは、蓄音機、レコード、などがみられ、さらに児童用運動機具購入費10円、保育補助材料購入資金100円などの寄贈もみられるのである。

このように、園の経営面のひ弱さが、町役場をはじめとして、浄土宗関係機関、卒園児保護者、地域の有力者、あるいは壇家の人々の善意によって補われてきていることが伺われるのである。

2. 近隣社会との交流

青藍幼稚園創立時から大正10年くらいまでの保育日誌に散見される、近隣社会との交流の状況は次のようである。

まず特筆されるのは、毎年秋に行なわれていた谷村小学校の運動会への参加である。園児たちはこの運動会を大変楽しみにしており、事前の稽古に励んでいる様子が伺われ、そして運動会当日の園児たちの愛らしい遊戯にたいして、参観の人々からおおいに喝采をうけているのである¹⁾⁻⁴⁾。

また付近の寺院に遊びに行き、茶菓の接待をうけて昼食までご馳走になり、寺院の歓迎ぶりが伺われるのである⁵⁾。

さらに、近くの私邸の別荘⁶⁾や工業試験場⁷⁾の敷地などで遊び、安全な自然的環境の中で園児たちが嬉々として遊び戯れ、そのうえ茶菓等のご馳走になるなどの様子がみられるのである。

ときには、遠路の散策で園児たちは疲労し、ために食欲増進になったとの記録もみられるのである⁸⁾。

このように、近隣社会の人々から暖かい目で園児たちが迎え入れられている様子がみられ、園児たちも心の底から自然を享受し、情意的な発達の点からも物心両面から良い環境におかれていたといえるのである。

註

- 1) 大正元年10月20日付保育日誌「谷村小学校校庭運動会アリ園児一同引キツレテ午前十時校ニユク十一時園児ハ数番ノ遊戯シ又実ニ無邪気ニテ愛シカリキ」
- 2) 大正2年10月21日付保育日誌「小学校ノ運動会モイヨイヨ二十六日ト定マリシモノカラ園児モ日々遊戯ノ稽古ニテ大喜ビ」
- 3) 大正2年10月26日付保育日誌「今日ハ定メシ早朝

ヨリ小供方押シカケ来ルコトナラント推シノ通り午前七時半ト思ボシキ頃ヨリ例ノ先生オハヨウノ声モ今朝ハ別シテヤカマシク押シ寄せ来リヌ午前十一時半頃中食ヲ中庭ニテスマシ、零時半ニ小学校サシテ出ズ三番番ノ競技シタル後園児ノ遊戯及ビ鞠投ゲアリヌ、イヅレモ末ダ学齡ニ達セザル児童ノ事トテ人形ノ手足ヲ動かカス如クナルモ参観ノ人ハヤンヤンヤノ大喝采小供モ大喜ビニテ無事ニ予定ノ遊戯ハオハリヌ午後二時ニ一同帰ル」

- 4) 大正5年11月5日付保育日誌「中秋の空晴れ渡り一点の雲なき今日小学校校庭にて運動会を催されぬ園児一同も参加し午前十時半遊戯、兎、桃太郎、お馬をなし拍手喝采のうちに上出来に終りぬ児童一同菓子を分たれ嬉々として時の過ぐるも知らず正午まで見物なし門前にて開放しぬ」
- 5) 大正9年4月30日付保育日誌「西涼寺へ遊びに行く同にて茶菓の於もてなしをうけむすび等頂き中食なし楽しく遊び十二時半帰路につく」
- 6) 大正6年5月1日付保育日誌「午前九時会集をす満し園児一同引率なし志村氏邸別荘の庭園に遊ぶ一重桜のぞめけれど八重は今盛りなりつつじも綻び初め風情誠によろし子供らは木々の間水の流れの河たるに嬉々として遊びに戯れ十時半頃持ちゆきし菓子を食しお茶の御馳走になり楽しきのちに午前十一時半頃帰園しぬ」
- 7) 大正6年10月22日付保育日誌「久し振りの晴れなりし故園児一同引率なし小学校に行き遊戯体操等なし午前十時半学校を出で工業試験場に行きぬ、庭一面に草生茂りたる其上をハダシにてかけ廻るやら横になるもありかの今ノ池に石を投げ鯉の浮び出づるを面白がるもあり東屋に腰打手振りて楽しむ諸々もあり知らぬ間に午後一時半にもなりぬそろそろ支度に取りかかり午後二時無事帰園しぬ 実に実に楽しき日なりき」
- 8) 大正10年10月26日付保育日誌「工業学校及普門寺へ散歩す帰路児供皆余程疲労す帰園後おひるの食事をなす大喜び」

青藍幼稚園 維持金並ニ物品寄贈録

明治39年12月	置暖炉網覆付一個	小林喜作
明治42年5月23日	金拾円也	小林友益
明治45年5月31日	金五拾円也	浄土宗管長
	金拾円也	小池英治
	(児童用運動機具購入費)	
	玩具貳拾個	奥孫三郎
	金壹百円也	浄土宗務所下付
	(建築費補助金)	
	金貳十円也	鈴木忠兵衛

菓樹檜等三十本 大江寂おう
 金拾円也 都留労働相互救済組合員一同
 躑躅苗三百本、外桜五本 渡辺欣造
 大正3年1月12日 修身例話辞典1冊 石井啓太郎
 大正7年4月1日 金貳拾円也 鈴木忠兵衛
 (為令息終了記念)
 金壹百円也 志村源太郎
 (亡父拾三回忌記念寄贈)
 金貳拾円也 小池英治
 (亡父七回忌記念)
 金貳拾円也 宮井 力
 (大三終了記念寄付)
 大正5年4月 金参円也 武内千代乃
 大正8年4月 金五拾円也第13回終了児17名寄付
 火鉢壹個 市川千代子
 大正9年4月 金壹百拾六円也第14回児18名寄付
 大正9年4月18日 金貳拾円也 武内千代乃
 大正9年8月15日 金壹百円也 前谷村警察署長
 故吉武春樹君遺族
 大正10年10月19日 金拾円也 森島幸治郎
 大正10年3月 金九拾七円也 第15回児26名寄付
 大正11年7月26日 金参拾円也 小池三郎
 (亡父利八遺志)
 大正11年3月 金百六拾貳円也第16回児32名寄付
 大正12年3月 金百六拾九円也第17回児32名寄付
 金貳拾円也 内藤はや

大正12年5月13日 金拾五円也 上原 薫
 金参拾円也 横山正次郎
 金貳拾円也 中谷 藤
 養老産砂(4トン) 太田 卓
 6インチゴム球六個 山本禮三郎
 蓄音機一台・レコード15枚 第19回児一同
 同上レコード3枚 赤池 栄
 同上レコード4枚 田中蘭谷
 大正14年10月 金九百五拾円也 谷村町役場
 (園舎増築補助金)
 金七拾円也 浄土宗務所
 (園舎増築補助金)
 金壹百円也 河口善之助
 (園舎増築補助金)
 金五拾円也 小林友益
 (園舎増築補助金)
 金貳拾円也 磯 彌平
 (園舎増築補助金)
 金貳拾円也 後藤藤太郎(函館)
 土瓶五個 市川武右衛門
 大正15年8月12日 金壹百円也 三枝 義
 (保育補助材料購入資金)
 大正15年8月28日 金壹百五拾円也 伊藤清佑
 (維持資金)
 (1995年11月28日受理)